友輪
発行所　横浜市南区宮元町4丁目
82番地　郵便番号232-8515
大山祇命神示教会神総本部
編集部
電話　045・731・5373
©大山祇命神示教会　2019

——仕合せの基は　和のある家庭——
家族で「教え」を学び　家族で目指す
「真理」で心重なる家庭を
家族　縁者の心は重なり　支え　補い合って
仕合せの輪が広がってゆく

世界が大きく変わる今 経験を生かして奉仕

先々を見据え、今必要なことをお示しくださるのが、神のお言葉です。神示と共に生きる人は、一つ一つが神のご指導どおりになる現実に、その不思議さ、有り難さを実感していることでしょう。社会が大きな転換期を迎える中で、常に身近で神示を学べることは、この上もない救いなのです。

時代の運命を受けて変化が

世の中では、政治、経済、時事の全てに批評が飛び交い、識者の見解が正論のように思い込んでいる傾向があります。しかし、先を見通すことなど誰にもできず、過去の経験、知識などから考察しているだけです。

社会には、数知れない情報、知識が混在しています。ですから、真理に根差した考え方を取捨選択していかないと、流れにのまれてしまいます。

今必要なのは、教えを学び、真理に悟りを得ることです。真理とは普遍のもの。道理に沿う生き方がごく自然とできる自分を目指すのです。

欲が絡む知識に振り回され、人々の心が安定感を欠いて、道を外すことが多かったこれまでの時代。しかし、いかに混沌とした社会でも、必ずあるべき姿に戻り、調和していくと、神は予言されています。

知らず知らずのうちに欲に負け、正道からそれて、不実を深めてきた人類。その限界も超える今だからこそ、社会は時代の運命の力を受けて、大きく変わろうとしているのです。

時代の運命とは、変化していく力です。春から夏、夏から秋へと移り変わり、決して逆戻りはありません。そうした変化どころではない、はるかに大きな時代の節目を迎えているのです。

ことごとく変わりつつある今、真理を軸に生きることが重要です。人生は、誰一人として同じ足跡をたどる人などいるはずもありません。すなわち、生き方の手本にはできても、人生そのものの手本はないということです。生を受けた時から死に向かって歩み始める人生。だからこそ、緊張感を欠いてはなりません。

真理にかなわない現実は、これから一つ一つ消えていくと、神は言い切られています。そして、調和が成るのです。そこに向かって時代が動いている今、何事も調和を心掛けることです。すると、時代の運命と重なって、守られていきます。

神　示
「教え」を学び
「人生」に悔いを残さぬように
「真理」に悟りを得る
努力が必要
時代　環境の力を受けて
「運命」の力が生かされてゆく
自然界に生きる万物の営みに
「真理」がある
心素直に
運命が導く力を受け入れ
過去の体験を
奉仕に返す人であれ
——人には先を見通す力はない——
この真理を深く悟れし人は
自我に生きる心から解放され
非我の世界に生きられる人の姿が
ここにある

違う流れから引き戻す時へ

世界が大きく変わろうとしているのです。

夏、夏から秋へと移り変わり、決して逆戻りはありません。そうした変化どころではない、はるかに大きな時代の節目を迎えているのです。

社会には、数知れない情報、知識が混在しています。ですから、真理に根差した考え方を取捨選択していかないと、流れにのまれてしまいます。

今必要なのは、教えを学び、真理に悟りを得ることです。真理とは普遍のもの。道理に沿う生き方がごく自然とできる自分を目指すのです。

欲が絡む知識に振り回され、人々の心が安定感を欠いて、道を外すことが多かったこれまでの時代。しかし、いかに混沌とした社会でも、必ずあるべき姿に戻り、調和していくと、神は予言されています。

知らず知らずのうちに欲に負け、正道からそれて、不実を深めてきた人類。その限界も超える今だからこそ、社会は時代の運命の力を受けて、大きく変わろうとしているのです。

時代の運命とは、変化していく力です。春から夏、夏から秋へと移り変わり、決して逆戻りはありません。そうした変化どころではない、はるかに大きな時代の節目を迎えているのです。

ことごとく変わりつつある今、真理を軸に生きることが重要です。人生は、誰一人として同じ足跡をたどる人などいるはずもありません。すなわち、生き方の手本にはできても、人生そのものの手本はないということです。生を受けた時から死に向かって歩み始める人生。だからこそ、緊張感を欠いてはなりません。

真理にかなわない現実は、これから一つ一つ消えていくと、神は言い切られています。そして、調和が成るのです。そこに向かって時代が動いている今、何事も調和を心掛けることです。すると、時代の運命と重なって、守られていきます。

神　示
なぜに世界は今
大きく環境を変えんと
動きを取るのか
また　自然災害が
数多く起きるのか
その真実の姿が見えていようか
世界は
人類には考えも及ばない
時代の力を受けて
流れを生み出す
ただ人間は
自然環境が生み出す
変化を受けて
科学を体系づけて対応している
そして　跡付けした姿が
歴史として残る
信者に申す
「教え」を学び
「人生」に悔いを残さぬように
「真理」に悟りを得る
努力が必要
時代　環境の力を受けて
「運命」の力が生かされてゆく
自然界に生きる万物の営みに
「真理」がある
心素直に
運命が導く力を受け入れ
過去の体験を
奉仕に返す人であれ
——人には先を見通す力はない——
この真理を深く悟れし人は
自我に生きる心から解放され
非我の世界に生きられる人の姿が
ここにある

社会に貢献する心を 協力 協調に実績が

世界のどこを見ても不安定な要素を抱え、企業経営に頭を悩ませる声は尽きません。一方、働く側では、仕事の満足度を求め、それを外的な要因で満たそうとする人が目立ちます。これだけ社会の変化が激しい中で、流れに乗って生きないと、乗り遅れてしまうと考える人も多いようです。

しかし、流行を目ざとく察知し、流れに乗ることが、仕事を成功させる鍵ではありません。仕事の満足度も、収入や職場環境、休日体制などで満たそうとしても、真の満足になるでしょうか。

人間は、誰もが人のために役立つものを持って生まれています。ですから、自分にできることで人の役に立つことこそ、仕事なのです。そう考えれば、どの職業でも、家事であっても、人の役に立って喜ばれる素晴らしい仕事です。

個人も、企業も、仕事の上で欠かせないのが、奉仕の心です。人のためになることをしようと尽くす心があって、神から与えられたそれぞれの運命、存在感、持っている力が生きるのです。

運命は、一人一人違います。社会への貢献の仕方が異なります。その運命に重なり、奉仕心で尽くすところに、必ず人から喜ばれ、生きがいに返ります。そして、一人一人の運命が重なり合うほど、調和が生まれ、好結果につながります。

運命と運命を重ね合う調和を生むのは、それぞれの心遣いです。互いが互いを尊重し、良さを生かし合おうとしたなら、持っている力は何倍にも膨らみます。人も、物も、自分も、他者も、全てを生かし合えばこそ、実績も上がれば、企業の発展もあるのです。

調和を欠いては、良い結果は望めません。真理に沿うところに、一時の成果ではなく、継続的な社会貢献になるのです。神も、このように真理を表されています。

仕事に向かう正しい姿勢をつかむため、今なすべきことは、教えを学んで人との正しい関わり方を知ることと、神はお教えくださいました。さまざまな人や物との向き合い方がつかめれば、そこに協力、協調した動きが取れます。そして、成果も生まれるからです。

仕事をする上では、成果や実績を上げることが第一の目的になりがちです。しかし、第一の目的は、自分が周りの人のために、社会のために貢献することです。その意識と運命と行動が重なったときに、実績は後から付いてきます。

自分が優先、自社が優先、自国が優先なのは、致し方ないことではあっても、互いに奉仕心を忘れなければ、平和は保たれます。奉仕に生きて互いを生かす、そこに相互利益を生み出す真理にかなう知恵があるのです。

神　示
仕事は
奉仕の真理に悟りを得て
生活するほど
成果を出す
仕事を職務と考える人が多く
ここに　仕事に悩み
人との出会いに苦しみを深める
「教え」を学び
「運命」に導かれた人生が
歩めるなれば
互いの存在は引き合い
生かし合う動きを取る
仕事の成果も上がり
生きがいとなってゆく
信者に申す
仕事とは
人　物　全ての存在が
今なすべきことは
「教え」を人生の支えにして
関わりを深める努力をする
「道」欠き　外す心の動きは慎み
協力　協調する動きを取る
自然と互いの運命が
重なり　補い合って
調和して「生きる」環境を生む
そこに
仕事の成果も大きく上がり
家族　縁者　友人　知人の心も
重なり合って
喜び多く
生きがいにあふれた人生を
歩んでゆける
職務　事業の実績も上がってゆく
重なり合って
生み出す力をいう

家庭を求める人々へ 相手を支え 補って

平均結婚年齢が年々上昇し、生涯未婚率も上がる一方といわれます。それは、家庭を持つことへの期待の薄さからか、出会いの機会の少なさからかと、さまざまな角度から指摘されます。

しかし、結婚年齢が早くても、遅くても、大切なのは仕合せな家庭を築くこと。それには、神の教えを学び、真理を心に生かせる自分自身になることです。

そもそも生まれ育った環境も違う二人が、共に人生を支え合って生きていく上では、互いを理解し、尊重し合っていく心遣いが欠かせません。時に気持ちの擦れ違うことがあったとしても、愛ある会話を交わす中で、二人の関係はますます深まり、まことの夫婦に育っていくのです。

家庭を求める思いを実現するために、そこに必要な心の在り方を、神はこのようにご指導くださいました。

人間は一人では生きられないのが真理です。ですから、共に支え合い、補い合える相手が必要です。それが心の通い合う夫婦であれば、どれほど仕合せでしょうか。

運命の開花を妨げるのは、実体です。開運するには、誰でも実体の修正が必要です。身近に暮らす家族は、互いの実体に目が向くこともあるものです。しかし、そこに愛があるなら、責めることもなく、互いの実体の修正に努め、和のある家庭を築くことができます。

夫婦は、支え合って生きる人生の同伴者。ただし、基本は相手に求めるのではなく、自分から相手を支え、補い、与え、尽くす姿勢です。その心があって、真理に生きる家庭ができるのです。

神　示
「教え」を学び
「真理」に悟りを得て
心に生かせる人は皆
相手の気持ちを受け止め
正しい関わりを深めてゆける
仕合せを共有し
会話の絶えない家庭の姿が
ここにある
信者に申す
「教え」に生きる決意を持って
心正しい「信者の道」
ゆく我であれ
この思いが
我が「運命」の力をもって
相手の人生を
支え　補う心を芽吹かせる
「教え」のある家庭に
夫婦の運命は重なり
互いの実体を
「真理」に生きて高めることに
気持ちが向かう
二人の会話も深まり
共鳴　共感し合う人生が
始まってゆく
「真理」に生きる二人の出会いに
六つの花びら咲き誇る
家庭の基がある

どの世界に身を置いても真理を軸に

神示を学ぶことで確かな生き方が

教育の基本は家庭に 両親の心が子供へと

大人ばかりか、小中学生までが携帯電話を持つのが当たり前の昨今。食卓に座ってからも、親子それぞれが操作しながら食事を取っている家庭もあるといいます。

子供の教育、特に神宝の節目、十五歳を迎えるまでの教育は、家庭における親子の触れ合い、会話がとても重要です。にもかかわらず、親子で機械操作に夢中では、大切な教育の場が無くなってしまいます。

子供と触れる前にもっと重要なのが、夫婦の会話。父親と母親の思いを一つにすることです。教育方針も、両親の意見が違っていたのでは、子供は迷ってしまいます。

だからこそ、欠かせないのが、夫婦で教えを学ぶことです。子供の教育には何が大切か、親としてどうあるべきかなど、教えの中から真理をつかむのです。

現代は、さまざまな情報があり過ぎて、子供の教育に関しても、何をどう選択すればよいのか迷うこともあるでしょう。そのときに、夫婦で教えを学んでいれば、我が子の特性に合わせて的確な判断ができるものです。

正しい子育てをするには、夫婦で教えを身に付け、二人の心を重ねることです。そして、立派に花が咲き、実を結ぶ家庭にしてほしいと、神は神示を表されました。

神　示
夫婦で「教え」を学び
夫婦二人の心を一つに重ねて
我が子に触れる
親が子供に与える教育の心と申す
親の心が「真理」に沿うほど
子供の心は安定し　親を慕う
花咲き　実を付け
大成する大樹の姿を
我が家に重ねて「家」を守る
神宝の時を迎えた我が子の姿は
親の愛を受け止めて
我が家の「心の道」を
歩み始める
親が子供に負う任の姿が
信者に申す
社会の姿
世論に心振り回されぬように
夫婦二人で「教え」を学び
我が家のあるべき心に据えて
我が家をつくる
時が流れ　社会の姿が変化しても
我が家の「心の道」に
我が子　我が孫は
神の手の中　心守られ
夢ある人生を歩んでゆける
「真理」のある家庭に
人は運命に心導かれて
悔いない人生を歩み抜ける
ここにある

『実りのみち2019』
『友輝23』

親子で真理を学び 心が安らぐ環境へ

夫婦で教えを学べば、自分たちに何が必要か、気付くことが多いはずです。そして、両親の心が重なります。子供との正しい関わり方も分かってきます。そこに、子供の心が安定します。

人の正体は魂であり、魂が最も安らぐのが家庭です。人生経験の少ない子供は、学校をはじめ、身近な社会に出る中で、心が乱れることもあるでしょう。それが体調に影響するかもしれません。魂が安定する環境をつくるのは、親として欠かせない務めです。そこに、夢のある子供の人生が広がっていくのです。

仕合せな人生の土台をつくる少年期、青年期にも、その時期に知らなくてはいけない真理の数々があります。それを学ぶ書籍が、『実りのみち』と『友輝』です。

少年期にしっかりと固めなくてはいけない真理が、親子の心のつながりです。両親との正しいつながりがあって初めて、子供の心は健やかに育つからです。不安要素が多い社会の中にあっても、親子が心を重ねて成長していけるように、共に学び合える教科書が『実りのみち』です。

十五歳を過ぎて青年期になると、その時に必要なのが、人生の夢を正しく捉え、生きる力を引き出していくことです。その実現のために、神は人生全ての根幹となる深い真理の数々を、毎年次々と表されています。毎回『友輝』で扱うどの項目にも、神は新たに真理を示されているのです。

今年も、新年度への切り替えに合わせ、三月に『実りのみち2019』と『友輝23』が発売となります。『実りのみち』は、親子で楽しみながら学べます。『友輝』は、親子で学ぶのはもちろんのこと、さまざまな真理を学び深めたい人たちにも、大いに役立つ真理満載の書籍です。

本人も、また両親も、家族も、真理を学ぶことによって、心が安定してきます。物事の道理に沿う考え方ができるようになるからです。家族一人一人の心が安定した魂の安らぐ家庭において、それぞれの良さが磨かれ、やがて社会に羽ばたく時を迎えるのです。

正しい家庭の営みをつくる青少年期向けの教会書籍、『実りのみち』と『友輝』。親子、家族で共に学び、身も、心も安らぐ家庭を築きましょう。

夢ある人生の土台を

実りの集い 友輝会

青少年期は、夢を膨らませながら、人生の土台を築く年代です。その時期に欠かせない真理を学ぶ勉強会を月々行っています。

小中学生向けの実りの集いは、家族や友達と楽しく生きるこつをつかむ授業です。十五歳から三十歳までが対象の友輝会では、神示を軸に人生の基本となる真理を身に付けていきます。

学びを重ねる中で、青少年の心は確実にステップアップ。家庭や学校、職場など、身近な場面で教えを実践する姿が光っています。

育まれる豊かな心
素直に教えを吸収

実りの集いでは、「好かれる人になるには…」「笑顔が持つ力とは…」などの問題を、みんなで考える場面も。教えが分かりやすくつかめます。

小学一年生の女子は、「苦手な友達はいるかな」という問い掛けに、「いないよ。みんな良さがあるから」と発言。学校で誰とも仲良く過ごしています。

「家族は一番の味方」と学んだ中学生の男子は、「親は口うるさいから、友達と話す方がいい」と思っていたことを反省。祈願するうちに、親への反発心が取れて、「自分から会話しよう」と、気持ちが変わりました。

親子で真理を楽しく

素直、正直な心を身に付ける友輝会の青年は、教えを軸に自分を見詰めています。就職活動中の大学生が気付いたのは、条件にばかり目が向いていたことでした。「良さを生かせる道に」と心を切り替え、力強く歩みだしています。

家庭でできること
家族との絆を深く

授業でつかんだことは、家で早速実行。「気持ちよくお手伝いする」と決めた小学二年生の女子。家族からの「ありがとね」が励みになって、「きょうは何ができるかな」と考えるのが楽しいそうです。

毎月親と学んでいる小学四年生の男子は、友達とけんかした時、「少し言い過ぎたかも…」と、母親に相談。「相手を思えて優しいね。自分の気持ちを話せば伝わるよ」その励ましに勇気が湧いて、仲直りできました。

進路で親ともめていた女子高生は、「もっと家族の話を聞こう」と耳を傾けました。すると、「こんなに考えてくれてありがたいな」と、親が自分を思う気持ちが伝わってきたそうです。感謝の気持ちが持てると、部の雰囲気も明るくなっています。

教えを生かして明るい我が家に

各自が良さを磨こうと

「安心した」など、短い言葉にも元気が出て、親のありがたさを実感。離れていても心がつながっている安心感に、今まで以上に絆が深まったと感じています。

出会いの中で成長
人の思いを大切に

教えを家の外でも実践し、良い影響を与えている人が大勢います。小学五年生の女子は、「皆のためになるなら」と、誰もやりたがらない係に立候補。中学生の男子は、試合で失敗して落ち込む友達に、「一緒に練習しよう」と声を掛け、想像以上に喜ばれて、うれしかったそうです。

吹奏楽部の部長になったものの、チームがまとまらずに悩んでいた高校生。一人一人の良さを褒めたり、準備や片付けを率先したりする中で少しずつみんなから頼られ、部の雰囲気も明るくなってきました。

幼稚園教諭の女性は、保護者から「運動会で子供が一等になる組み合わせに…」と言われ、「他の子もいるので…」と断ってきました。

保護者の「運動会のありがたさを実感。離れていても心がつながっている安心感に、今まで以上に絆が深まったと感じています。

教えに解決の答えが全てを生きる糧にと

悩みと向き合って

生きる上では、楽しいことばかりではなく、予期もしない出来事に戸惑い、迷うこともあるでしょう。逃れられない現実を突き付けられたとき、受け止め方は人それぞれ。「もう駄目だ」と心がなえてしまう人もいれば、「乗り越えるしかない」と前向きに行動できる人もいます。そのとき、神の教えがあれば、現実をしっかりと受け止め、冷静に解決への道を歩んでいけます。

自営業の不振に一人で悩みを抱えていた男性が、初めて教務相談を受けました。仕事と家庭を切り離してきた考え方を改め、これからは教えで生きようと決意。独立した子供たち夫婦にも連絡して、今後のことを話し合いました。家族の提案や激励に勇気を得て、改善に向けて意欲的に取り組んでいます。

悩みを乗り越える糸口は、必ず神の教えの中に見いだせます。毎月二十九日の希望の光勉強会では、神示から今の悩みに対する気付きが得られます。それは、問題が生じたときに、すぐに対処、対応できる知恵です。学びを重ねていると、自分を客観的に捉える心になれて、的を射た修正の努力ができるのです。

三十代の男性は、毎日神示に触れて、短気で感情的な性格であることが自覚できました。「相手に求め過ぎない」「何をするにも一呼吸…」と、心の安定を求めて祈願するように。最近では、職場でも「性格が変わったね」と言われます。自分の弱点が抑えられ、教えで生きることが確かな自信につながっています。

神示から悩みの原因を自分自身の中に見詰めて内省。その繰り返しは、自らを成長させる大きな原動力となります。

神魂に重なる祈願

「夫にだけは優しくなれなくて…」と悩む五十代の女性。偉光会館で光祈安康に出席し、自分自身の自我の強さに気付きました。神魂に思いを語っていると、無心になれ、「夫に愛される妻になりたい」と、温かい気持ちを取り戻しました。

毎日朝に夕に、事有るごとに神魂に思いを語る祈願のひとときは、教えを軸に心を清める貴重な時間です。神の心に近づくほど、人への愛や生きる力が湧いてくるのは、教えで生きる心に希望の光が通る証しです。

命の懸かった妻の手術を前にして、不安に揺れる夫や子供がそれぞれに「希望の光御祈願書」を提出し、清浄の儀に参列しました。神示が深く心に染み入り、神魂とつながっている安心感の中で、一人一人が家族を支え抜く心を誓いました。後日、回復した本人と家族が神魂の御元に御礼参拝。笑顔があふれていました。

真理を広く世の人に公式サイトの活用を

一人一人が生き生きと活躍できる社会にするためには、何が重要でしょうか。教育や医療、働き方などが見直されていながら、なかなか生きがいを見いだせない人もいます。その現実は、人が考える知識に限界があることを示しています。

神の教えの基軸には、真理があります。人生のさまざまな問題を解決するには、神示を学び、考え方を基本に戻し、あるべき姿を探ることです。人間関係であれば、相手に求める前に、自分自身が変わるところに、相手が変わり、環境も変わっていくのです。

神示教会公式サイトの「何でも相談室」では、さまざまな悩みに神示を基に答えています。時代が変わり、立場や役割が違っても、老若男女、万人に当てはまる神の教えは真理。世の中の知識では導き出せない答えが、神の教えの中にあります。「安らぎのある家庭を築くには…」「生涯に わたって健康に暮らすために…」「仕事にやりがいを得るには…」など、誰もが求める思いを受けて、神示から必要な気付きへと導きます。

一方、毎日の生活に教えを生かし、自分自身が変わったという体験も、数多く寄せられています。その内容を「喜びの声」として紹介。これも、併せて必見です。「だから、このような気持ちになれたのだ」「今の自分に足りないのはこれだ」などと、多くの発見が得られ、参考になるはずです。

公式サイトには、最新の神示も次々と掲載します。確かな救いのある教会の価値を、自分自身も味わい、身近な人々にも伝えていきましょう。

ここからアクセスを

五月の節目に本部へ各種プランが進行中

迎える五月光栄信者参拝時は、一年の前半の生き方を振り返り、後半の飛躍につなぐ節目の時。神の教えを軸に自分の心を見詰め、「家族の縁をより深く…」「自分の良さがもっと生かせるように…」と、全国から数多くの参拝者が神総本部を訪れ、学びを深めます。その一人一人が満足した一日を過ごせるように、神総本部ではさまざまな準備を進めています。

神殿で朝夕ご挨拶

団体参拝限定の宿泊プランでは、愛光会館お泊まり処に一泊し、真実の光会館光明殿で朝夕のご挨拶ができます。神魂と向き合う朝夕のひとときをより大切にできるように、神殿担当の職員から祈願について説明する場も設けます。静寂な神殿にぬかずき、神魂に思いを語る厳かな時間は、神の実在を心に深く感じ取れるものとなることでしょう。

新しくなった土産

神示教会発祥の地にある宿泊処も、「ぐっすり休める」「心身ともにくつろげる」と人気。家族そろってゆったりと過ごせる平日は、今からでもまだ予約が可能です。

「体も、心も温まる」と好評なのが、ぼたん湯です。その名にちなんだ土産物として、新たなハンドタオルを製作中。五月から宿泊処と愛光会館で販売します。

神魂と向き合い、一年の前進を図る光栄信者参拝時。大切な節目に各自が神総本部に足を運び、実りある時間を過ごせることでしょう。

神総本部の各会館が より神示に沿う姿に

神総本部には、神のご本体が宿る真実の光会館を中心に、直使ご生誕の地に立つ望館をはじめ、さまざまな施設があります。一つ一つの会館が、人々の幸福を実現する運命と、それをかなえる役割を担っています。

大行事や最新の神示を学ぶ勉強会を行っている信光会館は、信者教育の中心の館です。加えて、友和会館には、実践方法をつかむ授業や、個別に教えの生かし方を確認する相談の機能があります。「神示の意味が具体的に分かった」「悩みとの向き合い方のヒントがつかめた」と、真理で心を立て直しています。教会書籍の閲覧コーナーでは、学びを深める姿もあります。

人生の節目、節目に清明会館で儀式に臨めば、安心感が膨らみます。家族と共に人生を振り返り、あらためて支え合える存在のありがたさに気付けると、ますます心の結び付きが強くなります。

仕合せの輪を広げるために奉仕心を発揮する係の拠点となる、光寿会館と和光会館。光寿会館には、神魂に救われた感謝や、教えで生きる喜びを実感する人々が、「より多くの人に味わってほしい」と、熱い思いで触れ合う輝光の広場ができました。

昼時になるとにぎわうのが、愛光会館です。おなかを満たし、「心も体もほっとする」と、多くの人が授業の合間に足を運んで、安らぎのひとときを過ごしています。

現在、各会館の色合いをより鮮明に感じられるように、神総本部の環境を再整備しています。二月一日からは、各窓口の機能を明確にし、名称も変更。御神居や安寿居、教会特製品の購入は、真実の光会館のお品処となりました。神の座、仏の座に関わる質疑応答の掲示もあり、ご挨拶の仕方なども確認できます。

生きがいにあふれる毎日を手にするために、神総本部の救世環境を存分にご活用ください。

心のかけ橋

親になって知る 両親の偉大さ

福岡県　島田信代

私は、生まれた時から母に連れられ、偉光会館に出入りしています。おかげで、実りの集いで学んで育ち、四年前に結婚するまで、友輝会に出席していました。

高校生の頃は、いろいろなことに迷い、自信をなくすことも数多くありました。両親は、そんな私を見守り、いつも励ましてくれました。また、友輝会に出ると、「重く考え過ぎていた」「周りに流されていたな」と修正点に気付き、不安が消えていきました。父母に背中を押され、幼い頃から教えを学んできたことが、どんなときも、自分の心を成長させるバネになったのです。

私には一歳の息子がいます。自分が親になって、両親の大きさが分かるようになりました。父母は、いつも自らの生き方で、私や姉を導いてくれました。今度は、私が息子の手本になることを目指します。

通信授業から 学ぶ喜びを得て

青森県　佐々木清隆

昨年までの二年間、私は仕事でベトナムにいました。海外赴任中の楽しみは、教会の通信授業で学ぶことでした。一対一の授業を受ける感覚で学び、心が安定したことが思い出されます。その時に必要な心の在り方が見えるので、すぐに職場で実践すると、現地社員と思いが通じ合い、仕事が順調に進んだのです。

ある時、自社製品の不具合で、お客さまに迷惑を掛けてしまったことがあり、ひどく落ち込みました。しかし、通信授業のひと言ひと言が心に響き、「相手の立場に立って対応しよう」と前向きな気持ちになり、誠意を認めてもらうことができました。

帰国して、「当たり前と思っていた生活は、実はとても仕合せな環境だった」と実感しました。偉光会館にいつでも行けること、家族の笑顔や何げない会話、全てに感謝が深まりました。今は、教えを学ぶことや、毎日家に帰ることが楽しみで仕方ありません。

家族との会話を 宝と思う私に

栃木県　鈴木佳子

偉光会館の近くに転居して十年。当時の私は、家族に対し、「こうしてほしい」と求める心が強かったように思います。思いどおりにならないといらいらし、つい感情のままに言葉を発して、夫婦げんかも絶えませんでした。一方で、感情を抑えられない自分を責め、自ら苦しい思いをつくり出していたのです。

毎日がつらくて、何度も偉光会館に足を運びました。ご神前で祈願し、いろいろな授業から気付きを得て、分からないことは、相談で確認。その繰り返しに、ようやく家族の気持ちを感じ取れるようになったのです。

「温かい家庭にしたい」と心から思え、夫や娘たちが話しやすい自分になろうと意識するように。すると、ささいな会話も楽しくなり、身近な一つ一つが掛け替えのないものになっていきました。

最近、夫婦でウオーキングを始め、歩きながら仕事や娘のこと、将来の希望など、いろいろ語り合っています。口げんかをしても、あっという間に仲直り。夫が「いつも穏やかだね」と褒めてくれます。「家族との会話は宝」、そう思えることが奇跡です。

愛称の儀を受け 深まった感謝

福島県　村崎紀子

昨年、愛犬の「サン」が亡くなりました。その悲しみや喪失感を清めていただける儀式があると知り、家族で愛称の儀を受けました。みんなの涙が止まらないほど、感謝にあふれた儀式でした。

十五年前、まだ幼かった子供たちの面倒を見てくれていた母が、病気で心の世界に旅立ちました。闘病中、「孫が寂しくないように」と、母がチワワのサンをプレゼントしてくれたのです。

サンは、母の家族への思いを知っているかのように、どんなときも一人一人の心を癒やしてくれました。誰かが暗い顔をすると、そばを離れません。子供たちは「サンがいるから平気」と、寂しい思いをしないで済みました。月日が流れ、末の子が成人したのも、サンは見届けてくれました。

儀式では、母とサンへの感謝も新たに、母がかけてくれた愛に応えたいと、家族仲良く暮らすことを誓いました。

第3回 「自分」という花の咲かせ方
―生きる意味を見詰め直す―

毎日の生活にちりばめられている真理。見えないけれど確かに存在するこの世の仕組みを知っていれば、日々の過ごし方が変わってきます。そこに、出てくる結果も違ってくるでしょう。

健康観は人それぞれでも 心のコンディションは？

「あなたは健康？」と聞かれたなら、何と答えますか。

「疲れやすいけれど、どこも悪くないので、取りあえず健康かな」と思う人。「体は不自由でも、できることがたくさんある！」と、生き生き暮らす人。一方で、仕事や趣味に熱中し、ハードな生活を続けながらも、「人より体力がない。もっと鍛えなければ…」そんな不足を感じる人も。健康観は、人それぞれです。

心は、体にさまざまな影響を与えます。何があっても前向きな気持ちでいられたなら、心は健康です。そのような人は、現状を真っすぐ見詰め、「くよくよしないで頑張ろう」「大事なことに気付けた」「支えてもらってありがたい」などと、おおらかに受け止めることができるでしょう。すると、置かれた環境に順応し、安定した気持ちで暮らせるのです。

心の流れが健康に表れる
「心」ゆったり流れるなれば
体も健康
体力　気力　相まって
豊かな心が
ますます健康を育んでゆく

肉体のある人間にとって、病気やけがは付き物。そのようなときも、心が明るく、打たれ強くいられれば、しっかりと治療に臨め、回復も早いはずです。

心が健康なら、体調とのバランスも取れてきます。健康維持に、栄養、運動、睡眠などは欠かせません。しかし、最も重要なのは、心のコンディションを保つことなのです。

編集後記

今、時代は大きく変わりつつあります。間近に迫る改元など、その象徴です。時代の運命が動いているのです。時の流れに乗って生きるには、真理の数々を心の軸に据えることです。真理を踏まえた考え方に、間違いはありません。神示こそ、何よりの救いなのです。